



広報
Public relations
NEBA

ねば

9

2023 Sep.
Vol.218



- P 2-3 令和4年度 決算概要
- P 4 9月定例会 一般会計補正予算等 13議案について審議
- P 10 村民インタビューについて
- P 12 石原忠正氏(下町)瑞寶雙光章を授与される 他
- P 13 地域おこし協力隊の紹介 他
- P 14 ジェネリック医薬品を利用しよう 他
- P 15 柔道整復師・鍼灸師等にかかるときの注意!!!
- P 16 介護保険料に関するお知らせ 他
- P 18 杉っ子だより

【今月の表紙】

9月16日(土)に根羽保育所で運動会が行われました。

23億3,739万円

令和4年度の一般会計及び6特別会計の決算が9月定例村議会で認定されました。

一般会計と6特別会計の歳出総額は28億2,000万円で前年対比1.3%の増となりました。

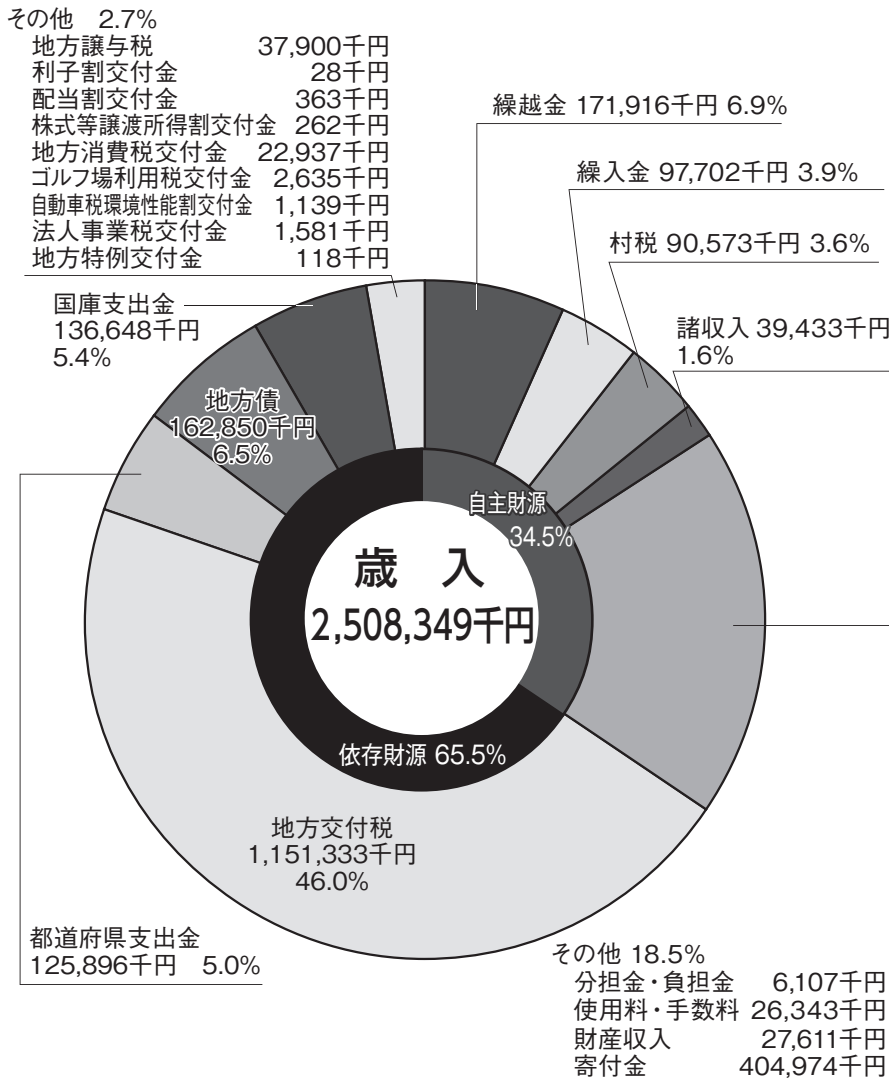
ここで、村の会計簿であり、村づくりの記録でもある令和4年度普通会計（一般会計と村営バス特別会計）の決算概要をお知らせします。

まず、歳入の状況をみますと、依存財源の比率は70.82%で、このうち地方交付税が全体の45.9%（対前年比3.4%減）、国庫支出金が5.4%（対前年比16.5%増）、県支出金が5.0%（対前年比29.9%減）となっています。自主財源の比率は34.47%

でこのうち村税は3.6%となっています。

次に歳入ですが、性質別にみますと、物件費25.4%（対前年比10.9%増）次いで積立金が15.9%（対前年比3.0%増）普通建設事業費15.0%（対前年5.0%減）補助費が12.1%（対前年比15.2%増）となっています。

次に主な事業内容ですが、村営住宅建設工事（設計監督費含）9394万円、林道開設事業（洞中線開設・新井小糸線開設・本洞線舗装工事など設計監督費含）として8353万3000円などとなっています。



◇一般会計・特別会計収支の状況 (単位：金額＝千円、率＝%)

	予算現額	収入済額	対前年比	支出済額	対前年比	差	引
一般会計	2,669,468	2,493,776	0.5%	2,322,821	0.6%	170,955	
バス会計	18,558	17,102	- 46.1%	17,102	- 46.1%	0	
繰入金調整		- 2,529	- 23.1%	- 2,529	- 23.1%	0	
普通会計計		2,508,349	17.6%	2,337,394	0.0%	170,955	
国保	115,995	110,910	19.9%	110,890	20.0%	20	
簡易水道	60,071	58,597	22.1%	58,597	22.1%	0	
下水	74,400	69,451	0.9%	69,451	0.9%	0	
介護保険	237,710	239,685	6.2%	222,007	0.2%	17,678	
後期高齢者	17,608	16,896	- 1.3%	16,896	- 1.3%	0	
合計	3,052,383	3,003,888	16.2%	2,815,235	1.1%	188,653	

決算概要 令和4年度

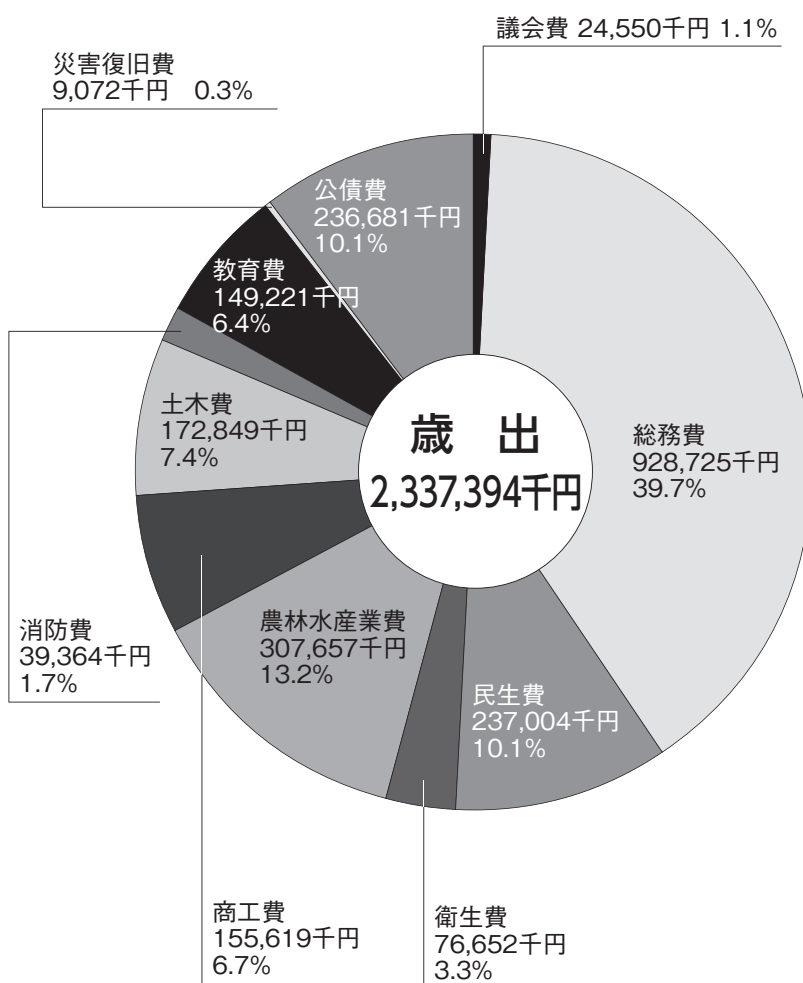
普通会計の歳出総額



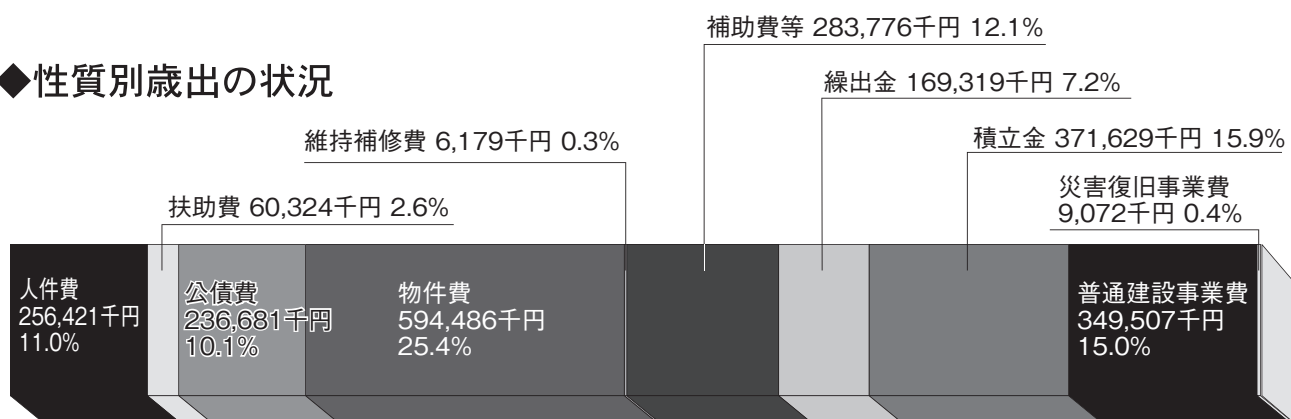
大畑単身用住宅



林道本洞線



◆性質別歳出の状況



9月
定例会一般会計補正予算等
13議案について審議

9月12日・14日に、9月定例会が開催されました。内容については、次のとおりです。

一般質問

◆片桐康孝議員
根羽学園の熱中症対策について

根羽村は昔ながら避暑地のイメージが強かったが、近年の猛暑はそういったイメージが無くなりつつあると感じている。今夏でも気温33度から34度は当たり前になり通常の熱中症対策で身を守れるのか不安になる。8月22日北海道某小学校では屋外運動場で小2の児童が熱中症で緊急搬送され、死亡が確認された。この時の気温は33.5度で本村でも日常茶飯事の気温。これは新たな基準を考えないと子供を守れないという事になる。毎年最高気温を更新していく日本列島に於いて根羽村でも今後の熱中症対策について検討すべきではないか。以上の事を踏まえ教育長に2点お伺いしたい。

1、学園での熱中症対策の取り組みはどの様になされているか、特に屋外授業についての対策をお聞きたい。

2、年々上昇していく気温に対し、学園での対策に課題はあるのか。又将来的な熱中症対策は考えられているのか。

教育長 本年の夏は7月以降記録的な猛暑を記録した。気象庁の異常気象分析検討会の記者会見においても、会長が今年の気温は歴史と比較しても圧倒的に高い、夏であつても異常だったと述べ、今夏の平均気温は統計開始以降最高となるとの表意を示した。議員のご指摘

の通り、7月28日には中学生が部活動の帰宅途中に倒れ亡くなられたこと、北海道での小学生の痛ましい事故など、連日のように報道がされている。国の複数機関連名の6月26日付事務連絡において、熱中症対策の一層の強化についての依頼文章が发出され、この中で5月30日に閣議決定された熱中症対策実行計画による基本的な方法が示された。学校関係では、学校教育活動における熱中症事故の防止についての依頼文章が文科省より发出され、令和4年度においては学校管理下において3,142件を超える熱中症事故が発生していること、気温が高くなる前から対策を講じることの重要性が喚起されている。長野県においては熱中症アラートが7月17日に本年度初发出された。示された具体的な対策として、25度からの暑さ指数WBGTを活用し具体的な水分、塩分の補給、帽子の着用、衣類の調節、空調施設の適切な気温などが明記されている。暑さ指数WBGTとは、湿度、輻射熱、気温の比率をそれぞれ7対2対1として計算される指数。環境省「熱中症環境保健マニュアル」によれば、運動に関してはWBGTで21度から25度で注意、25度から28度で警戒、28度から31度で厳重警戒、31度以上で運動は原則中止、33度を超えた時点で熱中症アラート发出となっている。日常生活においても、28度から31度で外出は避け、室内気温の上昇に注意することとされている。根羽学園においては、適切な空調施設の利用、下校指導時の水分を持参するように指導すること、こまめな水分補給を行い、運動時はマスクを外す、保健だよりで熱中症に関する注意をするように啓発、

昇降口にもWBGTに関する掲示物を掲示している。また、朝・昼・放課後の三回WBGTを計測・記録し、体育・部活動では常に熱中症計を携行し、危険域になったら中止するなどの細心の注意を払っている。今夏の状況であるが、ただいま申し上げた基準を順守して活動をしている。現在まだ基準に達することとはなく、部活動、屋外活動において中止等の対応をしたものはない。実際に私が同行した愛知県名古屋市中におけるJAIICA中部での研修においても、室内では複数回の水分補給、塩飴による塩分補給などの細心の配慮がなされていることを認めた。蛇足ながら保育所においても、「熱中症予防対策マニュアル」を作成し、順守して日々の保育にあたっている。

2点目の今後の熱中症対策について。現在、全ての教室へエアコンの設置を完了した。本年度、学校体育館のプレイルームに2機のエアコンを設置した。今後、さらなる気温の上昇や、国、県の動向などから更なる対策を講じる可能性もある。その際は速やかに対処していきたいと思うので、ご理解をいただきたい。また、現在「黒球式熱中症計」が学校に1台しかないため、各教室に1台ずつ配置したいとの要望を受けているので、検討していきたい。ソフト面においては、現在も行っているが、教員・保育士の皆さんと、きめの細かな対処と、今まで同様大切な命を落とす熱中症の危険性を更に啓発していきたい。今後ともご理解ご協力のほどよろしくお願いしたい。

議員 今月にも上旬の頃には依然として猛暑日が続く日々がありました。従来の休憩、あるいは水分補給、時短授業を行いつつ、生徒の体調管理にも万全をきして頂けるものと思っております。また、各地の最高気温を見ておきますと、都会よりも山間部の方が、高いことに気づきます。参考意見になるか分か

りませんが、夏休みの期間を愛知県、あるいは全国的に平均の夏休み期間に合わせるのも対策の一つになるのではないかと思います。長野県は涼しいから夏休みが少なくて良いという考えは、今や古いと言わざる負えません。子供たちにとって、学園で安心して授業が受けられるよう、また今度も万全な体制で取り組みたいことを望みます。

議員 家族による高齢者介護の在り方について

本村の平均年齢は60歳を超え高齢化率50%に達するまでになり、家族による高齢者介護は今後益々増加し避けては通れない喫緊の課題であると認識している。高齢者に対しては村や県から手厚い手当が提供されるが、同居の家族は仕事や子育てをしながら親の介護に当たっているのが現状。介護疲れからくる体調不良や介護鬱に陥る方もみえる。こういった問題は介護に関わる方にも何らかのサポートが必要であることを意味すると思う。以上の事から村長に2点お伺いしたい。

1、高齢化率の高い本村に於いて介護問題が増加していく事に対し、又家族の精神的疲労に対処してどのような考えを持っているのかお聞きたい。

2、家族を対象とした相談所やオレンジカフェ等の仕組みも必要と考えるが如何か。

村長 村内の高齢化率は現在約52%であり、村、社協、福祉団体、医療、それから保険と関係する団体が連携を図りながら、村民全員で支え合って、誰もが安心して住み続けられる福祉の推進が必要であると考えているところである。また、家庭で介護されている皆さんへの体力的な問題や、精神的な問題など、議員さんのおっしゃる様に、様々な課題があることは非常に理解しており、特に1人で抱え込んでしまうと、いったことが大きな問題であると認識している。できるだけ、そういう

た問題を一人で抱え込まないで相談できる体制づくりが必要であると考えており、村として社協、あるいは福祉団体や関連団体と連携して村では取り組みを進めてきている。また、役場や社協では、日頃の活動やケア会議の中で、高齢者の皆さんの生活や、家族の状態について情報をそれぞれ共有し合っており、それぞれ必要に応じてその都度支援を提供しているのが現状である。また社協では、認知症ケア専門の資格をもった職員がおり、家族等の困りごとについての相談活動を行っている。また、村では在宅で重度の高齢者や心身障害者を介護している家庭への介護医療金の支給事業を実施していることはご承知のことと思う。また、重度の要介護高齢者一人について、社協等の在宅サービス事業者の介護サービスを利用した際の、一割負担分及び職員負担分として年間上限78,000円であるが、利用できる助成制度がある。また、住民支え合い総合支援事業という位置づけで、社協の有償サービスの貸し出しや、福祉の有償サービスの実施、交通空白地帯の有償サービス等を行っている。また介護予防、日常生活での支援、総合事業においては、介護予防や生活支援サービスとして、訪問型のサービスや、通所型のサービス、配食サービス等の生活支援サービスを「なごみ」や「有閑荘」で実施している。また、「一般介護予防事業」として、軽度の生活支援事業や、体操や音楽等を中心とした生きがいデイサービスや、男性の生活応援講座や、水中運動教室、ふれあいサロンなどの事業を社協で定期的に実施し、多くの方に参加していただく機会を設けている。また村の中で、こういったサービスの事業がありますので、積極的な事業を活用していただくとともに、家族の介護への負担が軽減できるということが大切ではないかと考えているので、そういった部分での支援もしっかりとしてまいりたいと思う。また、介

護者の方が常日頃の悩みや困りごとについて役場の保健師や社協で随時相談を受け付けているので、気軽に相談をしていただく事が大事だと思うので、気軽に是非ご相談していただければと思う。また、オレンジカフエについての質問であるが、オレンジカフエについて、根羽村でも令和2年と3年に回数は少なかったが、月1回程度開設をした経緯がある。実施する中で、根羽村はご承知のように家が広く分散している問題などがあり、なかなか集まりにくかったのが現状であり、その後、コロナウィルス感染があり、なかなか参加者が少なかったという話を聞いている。またオレンジカフエの開設には、専門職を率いる人的な確保や、地理的要件などで、特定の箇所での常時の開設というのは難しいと思うが、たとえば村の中心部にある「くりや」を使つて年数回行うとか、そういったことは可能であると思うので、形を変えながら村で出来るオレンジカフエ的な対応というのも可能であると思うので、検討して参りたいと思う。また、もう一点、現在冬季限定であるが、ふれあいサロンを実施しているが、それもオレンジカフエに代わるようなものになると思うので、こういった部分も積極的に活用していただければと思う。いずれに關しても、介護される方のご苦勞は大変だと思うし、一人でそういった悩みを抱え込むのは非常に負担になるので、是非、日頃の悩みや困り事などについて積極的なそれぞれの関係機関があるので、気軽に相談していただく事をお願い申し上げ、回答とさせていただきます。よろしくお願いたします。

議員 全国的にも介護を中心とした相談所等を導入している地区は増えつつあるわけですが、同じ悩みを持つ者同士で分かち合える場所を提供できるオレンジカフエは有効な手段であると考えております。現在では、言われた通りふれあいサロン等を通してその役目を果たして

いるわけですが、今現在では年に一回等という事でございますので、そういった場をもう少し増やしていただくか、また参加者を募つていただければと思っております。また家族の相談所のようなものや交流の場所では、オンライン又は電話等による福祉法人との対話、家族間との交流もある中で、そういった方向も視野に入れながら、考えることを提案します。以上で終わります。

◆松下武久議員

議員 ごみの搬出に支障をきたしている高齢者等へのサポートについて
ゴミ処理に支障をきたしている高齢者に対してのサポートについて3点について質問させていただきます。

1、可燃ごみ、不燃ごみを含めて、ゴミ収集場所まで遠い方であったり、交通に支障があつて持ち出せない方もいる中で、どうサポートしていくか。ご近所や地区が協力するのが大切であるが、村はどのように考えているのか。

2、古紙回収については年間6回あるが、高齢者になると車を運転することができず、出せないことがあるので、そこに対する対策はあるのか。ゴミの問題については、地区、村、福祉施設、社協が協力し合いながら進めていくことが理想であるが、どのようにお考えか。

3、親族の方が帰省した際にゴミの収集に間に合わない物については、親族が持ち帰り、処分をしている方もいる。それについては、村としてどう考えているのか村長にお伺いしたい。

村長 村内のゴミ集積箇所については、40ヶ所。ペットボトルの集積箇所は9箇所。そのうち、月・木曜日の週2回の収集箇所は8箇所。月曜日のみが、6箇所。木曜日のみが、16箇所となっている。ゴミの集積箇所の増設については、意見をいただいているが、管理する北設広域事務組合でも話題となっている

が、収集時間の問題等から今以上の収集箇所の増設については、現段階では難しいとの回答をいただいている。この課題に対しての即時対応は難しい状況にある。これについて、ご理解いただきたい。また、粗大ゴミ及び古紙回収については、運搬手段のない方については、現在シルバー人材センターに相談していただければ、対応していただけるとのことでした。こういった点についても再度村から情報提供していきたく。もう一点の日常のゴミ出しについては、

協の一般介護予防事業で軽度の生活援助事業というものが、65歳以上の独居者の方、あるいは、75歳以上の高齢者世帯の方を対象として、軽度な日常生活上の援助をおこなっている事業がある。これについては、時間制限がある。現状では利用料が、1時間100円で、年間10時間まで利用できる制度となっている。草刈り等、色々なことに對して活用している。この事業で、ゴミ出しをおこなっている方もおられると承知している。内容については、もう少し検討が必要部分が、あるが、こういった事業についても積極的に活用していただければと思ふので、村としても、呼びかけを行なっていきたいと思う。また、介護予防や日常生活支援総合事業の中で、制約はあるが、要支援1の方を対象として、簡単な家事や自立した生活の援助等の軽度の生活援助サービスがあり、そこでは、食事、掃除、洗濯、それ以外に併せてゴミ出しも行っているのが現状である。これについては、要支援者に限られてしまふが、これについても内容等を検討していきたいと思う。また、帰省された方がゴミをそのまま持ち帰り、処分をしている事について、基本的には、原則として、収集日の朝に決まった時間までに出してもらつていふが、それ以外の際に持ち帰っていると思うが、その件については、具体的に村へ相談してもらいながら、事前にゴミを出してしまうと、色々な問題があるので、逆にその方々に対して、近所で支援する制度があるのか、補助で支援するのかについては、情報をいただきながら、具体的に考えていきたい。基本的には、村で出たゴミは根羽で処理してもらふのが、一番いいと思う。いずれにしても、現状では、シルバー人材センターや社協で、今ある支援をしつかりと村民にPRしていきたい。改めて、今の制度の内容を充実させていくのも必要かと思う。これについては、検討していきたいと思う。

もう一点、近所の方で無償でゴミ出しをお願いするのは、非常に気兼ねという話もお聞きすることがあります。確かに、そう思う。その対策として、できるかわからないが、金額の設定は別として、例えば有料で近所の方にゴミ出しの依頼するゴミ出券みたいなものなど、何らかの協力体制ができるものが必要かと思うので、これについても皆さんと協議を重ねたいと思う。いずれにしても、高齢者の皆さんにとつてなるべく負担のない形で日常のゴミ処理等ができるよう関係団体等や多くの村民の皆さんと応援しながら、良い方法を検討していきたいと思う。

議員 新たな対策も考えているとの事なので、実施の方向でよろしくお願ひしたいと思う。また、災害時等について、併せて、なぜこの質問をしたかという、ゴミを近隣の人が見にくい事で、日常や災害時の時に安否確認ができたため、社協、なごみ、有閑荘や村の方々とよく協議していただきたいと思う。よろしくお願ひいたします。

◆片桐雅浩議員

議員 中央地区の街路灯の維持管理について

区の要望で何度も出している、街路灯の問題ですが、事業主体の商栄会がなくなり、責任の所在がはっきりしないため、維持管理等の問題が出てきており、大変困つてい

る。7月の地区懇談会でも下町区から電灯のLED化への要望が出ましたが、村は壊れた箇所のみ順次交換する。全面改修は考えていないとの回答だった。その後、下町区長が、役場に確認に行ったところ、今年度は、工事の予定がないという報告を受けたとの事だった。中央地区の街路灯は、昭和59年に長野県と根羽村からそれぞれ100万円の補助をいただき、授業主体の商栄会が120万円を負担し、事業費320万円で37機設置したものである。街路灯は、地域内を明るくし、生き生きとした地域づくりを目的に設置された。この街路灯の維持管理は設置した5町に委ねられ、設置機数に応じて、それぞれの地区が電気代等を負担しているものです。しかし、この電気代が、近年のエネルギー価格等の高騰もあり、区の財政の大きな負担となっている。出身地区である下町地区の話になるが、令和4年度地区会計の支出合計が46万4382円に対し、電気料金が12万1千581円となつており、支出全体の26%を占める大変大きな金額となっている。このうちの大半が街路灯の電気代となっている。このため、支出削減をするため、区では、役員報酬の減額を行つたり、年末の区集會を取りやめ、その際村営住宅に住んでいる方々も含めて、折詰を配布していたが、こういった事もや無負えず中止することとなった。地区の結束を図る大切な行事であり、こうした機会がなくなるのは、地域コミュニティの崩壊に繋がつてしまふ。下町地区は、空き家になつた家からも区費の協力をいただいているが、世代が変わり、国の空

きや対策などもあつて、この先、いつまで区費の協力をいただけるかわからず、地区運営経費の一人当たりの負担が更に大きくなる事が予想されます。地域の行事が満足に行えない状況でも、村はこのまま街路灯の維持管理を地区に任せきりにするつもりでしょうか。また、この様

な状況が長く続くようですと、街路灯を消すしかない、減らすしかない。といった悲観的な意見が出ております。街路灯は、区の防犯対策のみならず、国道や県道を利用するすべての人にとって大切な光です。交通安全への貢献も非常に大きい大変重要なインフラ設備と考えています。そして、その灯りを決して消してはならないと考えている。そんな街路灯の中には、感知センサーが壊れて、つきっぱなしになっているものが、数多くあります。地区懇談会の際には、村は壊れたものから交換工事するといっていたが、何故交換しないのか。電気代金が定額になつており、区費に負担をかけない、灯りについては、街路灯としての役割を果たしているから、問題ないと考えているのか。役場の下から国道を愛知県方面へ走り、旧役場までの間に4機もの着きっぱなしの電気があります。村長はお気づきでしょうか。あれを見て、大変なエネルギーの無駄遣いとは感じないでしょうか。また、壊れた街路灯から治すと村は言うが、私の家の前の街路灯は、切れてから約半年間新しいものがつきませんでした。問題を先送りにし、いざ壊れても予算がつかない。素早い対応をしていただけない。こんな状況では、住民も失望している。このような現状だが、街路灯の維持管理について村は今後どのように考えているのか。村長の意見を伺いたい。

村長 ご承知の通り、村内の国道については、国土交通省が道路の管理から、交差点やパーキングに街路灯を設置している。また、中央地区には、商栄会が設置した街路灯があり、街中を明るく照らしており、夜間の交通安全確保、防犯対策や生活空間の維持に大きな役割を果たしている事は、私たちが理解をしている。中央地区の街路灯については、商栄会が事業主体となつて、整備をし、その後、維持管理については、地元が行ってきたことは、

非常に勿体無いと言ふような思いもある。その中で、対応するべきであると言ふ思いはあり、色々検討はしている。この設置費用については、場所等によつて異なる。現在の柱を利用して、LED化をしていくと、1機あたり、4万円から7万円程度でできると言ふ実績がある。商栄会で設置した中央地区の街路灯については、37機ある。現在は6機がLED化されている。残り31機である。村では、当初電気の切れたものから順次交換していく方針であったが、壊れたものや電気が切れるまで待つと言ふのは、近年の電気が厳しい状況もあるので、これについては、早期に、LED化をしていく、1機あたりの電気料を安くしていく、そして、街中をしっかりと明るくしていく事が重要であると理解している。来年度の当初予算で、残りの31機についてLED化を予算で検討していただきたいと思う。ご理解をいただければと思う。今現在については、つきっぱなしの状況であるが、来年度の当初予算で考えたいと思うので、ご理解いただきたい。今後、LED化する、電氣量が非常に安くなり、1機あたり180円から200円程度となると言う。村内の防犯灯についても維持費はそれぞれの地区でお願いをしているので、中央地区の街路灯についてもこの商栄会で設置した37機についても更新はするが、電氣代については、他の地区と同様に地区で維持管理費はお願いしたい。いずれにしても、早急に対応をさせていただきたいと考えているので、ご理解をお願いしたい。

◆片桐紳一郎議員
議員 安城親子留学について
 まず1点目、安城親子留学について
 安城との留学が始まりまして、5年ほどが経過しました。留学生は、令和3年度5家庭8名、令和4年度3家庭4名、令和5年度、3家庭4名と推移してきています。
 本年度に関しては、特に大きな問題もなく、親子留学は進んできていると認識しております。
 そこで、以下の質問に簡潔な答弁をお願いしたいと思います。まず、1点目です。教育長に伺います。6月議会の答弁の中で、教育長からは、「コミュニケーション不足という指摘に関しては自覚している。今年度は新たに求められた安城市の皆さんとの懇談会を設けた。現状、PTA総会、参観日等での報告会を考えているが、必要性があると思うので、今後検討を重ねていきたい」と思う。安城市のご家庭だけでなく、根羽村のご家庭にも不安を与えないようにしてまいりたい」という答弁がありました。6月議会から3か月が過ぎようとしておりますが、PTA総会、参観日等での報告会等どこまで検討が進んでいるのか。お伺いしたい。
教育長 現行の親子保留留学のご家庭に関しては、現在、来年度延長する希望の有無を調査する予備調査を実施しているところです。また、来年度の新規の留学生を募集するため、今月24日の日曜日でありますけれども、現地説明会を開催する予定です。各家庭の意向が決まってくるのが、現行、新規のご家庭とも11月中旬頃になりますので、それ以降にお知らせするということになるのかと思う。確定した上での報告が最善かと思われまして、現在のところ、1月の参観日の折に報告できればという風に考えているが、来年度のPTA役員の選出等の事

情もありますので、書面など別の形を取ることも考えています。また、当初、説明会のような形で、報告を想定しているが、現在、親留学に関するだけでなく、情報開示の手段として、村内回覧に、教育委員会通信のようなものを、発行することを考え、遂行をしているところである。いずれにせよ、現行、地域のご家庭とご相談させていただいた上で、お知らせをさせていただきたいという風に考えています。現在留学中の親子留学の家庭の皆さんにおいては、親子共々、地域解け込んでいただけて生活をしていただけておるころである。7月の25日に2回目の懇談会を開催しましたところ、概ね満足いただいているという風に伺っている。今後とも、懇談会、回覧等でコミュニケーションを図り、取り組んでまいりたいと思っておりますので、ご理解のほどよろしくお願ひしたい。
議員 前向きな答弁、ありがとうございます。情報回覧等、情報等を、開示していただけたらとか、教育委員会通信等を出されるということ、なかなか良い前向きなときだと思えますけれども、ただ、その中にどうして村民からの意見として、安城に対してたくさんお金を使っているんじゃないか、安城は優遇されているという意見がかなり多くありますので、その点に関して、できれば、村民が理解できるように形で情報開示を行っていたら、とありがたいと思っております。よろしくお願ひします。
議員 続いて安城親子留学について2点目。村長に伺います。
 親子留学生の募集は、昨年度の9月時点で1家庭、令和6年度については、8月の定例会の折り入れは1家庭という認識をしています。先ほど教育長の答弁の方にもあったが、現在の留学している家庭が継続するかどうかで、12月時点での新規の留学家庭の可否が決まってくると思う。

6月議会での一般質問の答弁を基に留學生の数を試算すると、10名程度の親子留学を教育委員会は想定しているかと思えます。すでに親子留学が始まって5年が経過しております。

現在、3棟が親子留學生用に使用されております。ここ2年間にについては、親子留學生用の住宅は4棟です。このような状況の中で、親子留學生の募集人員の根拠と親子留學生用に確保している住宅とのバランスをどのように考えているのでしょうか。お願いします。

村長 安城市からの親子留学について、6月定例会の議員の一般質問に對しまして、副村長、当時教育長だったわけであるが、当時の教育委員会での基本的な考え方の説明あったと思う。

その中で、仮に根羽村の子供の数が30人だった場合、単式学級を維持するには、留學生10人程度が必要になる試算になるという説明をさせていただいた。ただし、実際の受け入れの決定については、人数合わせではなくて、根羽の環境で子供を育てたいという思いの方を先行している。そういった説明をさせていただいた。

したがって、親子留学の人数を10名と想定しているという事ではないので理解をいただきたいと思う。また、親子留学で来られる方には、ご承知のように、村の世帯住宅を提供させていただいている。この事業を導入した当時であるが、村の世帯住宅の絶対数が足りなかったという事で、世帯用住宅の整備を、数年の間に行なった。

整備した住宅については、親子留学の、専用の住宅ではなく、村営住宅でありまして、現在は、親子留学で来られた皆さんは、この新しい住宅に入られる。過去にも、この新しい住宅以外の世帯住宅に入居されますので、村としては、村全体の世帯用住宅で、状況によって検討す

るという方針で、今も、進めてきておるわけであります。また、親子留学の募集については、先ほど教育長の説明があった通りなので、これから、来年度の申し込みを受け付ける事にありますが、申し込み状況の様子と、村の受け入れのキャパもあるんで、現在の世帯用住宅の空き状況、現在少し余裕を少し持つておりますので、そこも含めて、最終的な決定を行う事となるのでそういった点もご理解いただければと思う。

議員 ありがとうございました。今の回答について1つ疑問があるんですが、例えば、親子留學生用の住宅が確保できないというような場合も考えられるわけですが、でも、その時は、募集はするものの、1人の留学の許可は出せない、受け入れはしないということでしょうか。

村長 それは、あくまで仮の話にすぎない。現在はそういった事はないと思うが、例えば人数がたくなさんになった場合は、無理な場合もあるが、決して「0」ということはないと理解しておりますので、できる範囲で調整をしていきたいと思う。

議員 できる範囲で調整をしていただけるということなので、せっかくの、根羽村が良くて来る親子留學生が大勢おられますので、できるだけ、安城の子どもたちを根羽で成長させ、その中で、根羽の子どもたちとの環境が、お互いに、いい関係を作っていたいただければと思いますので、よろしく願います。

議員 学園グラウンドの安全管理について

学園グラウンドの安全管理について、教育長に伺います。今年の4月8日、西尾市が管理する公園の多目的広場で、地元の子供会の小学生が、ソフトボールの練習をしていたところ、2塁ベースに滑り込んだ4年生の男児が左膝を10針縫う大怪我をしました。市が調べたところ、長さ10センチ程度から23センチ程度の釘、合わせて5本が地面の

中に埋め込まれているのが見つかったほか、その後、金属探知機を使った調査でも新たに14本の釘が見つかりました。8月の教育委員会定例会の折に、教育委員からこの件について質問がありまして、教育長は、「トラックだから、先生方が把握しているから大丈夫である。」と答えられました。しかし、一般的には、学校ではトラックを作成する時には、ポイントとして、何か所かに目印のための釘を打ち込んでおきます。先生方が丁寧にグラウンドを見たとしても、西尾のように金属探知機を使った調査をしないと、腐食した釘等が出てくる可能性もあります。子供の安全を考えた時に、金属探知機を用いて調査し、子供たちが安全にグラウンドを使用することができるようになるという考えはないのでしょうか。また、同様に、村民グラウンドについては、社会体育等で非常に多くの村民が使用することになりますが、どのように対処する予定でおられるのでしょうか。よろしく願います。

教育長 ご指摘の通り、4月の事故を受け、文部科学省総合政策局男女共同参画共生社会学習・安全課から事務連絡で、「校庭等における危険物の確認・除去について」が5月12日付けで、発出されました。その中で、「学校安全資料「生きる力」をばくくむ学校での安全教育」の別紙117ページ（2）校舎外・園舎外の安全管理において、危険物、ガラス、石、釘など有無について言及され、注意喚起がなされました。現在、根羽学園におきましては、目印となるピンは議員がおっしゃる通り、数ヶ所使用中であります。学校教育計画中で、管理部を組織し、毎月1日、校社内外の安全点検を行っております。校庭におきまして、危険物が確認された時は、除去の方を、心がけております。また、トレーニングセンターのグラウンドにおきまして、ピンを使うのは、消防団の操法大会

の練習のみで、終了次第、消防団の方々が、責任を持って、撤去をいただいております。こちらに関しては、太く先端が尖ったものではないという風に理解している。また、校庭・トレセン双方とも除草作業の際に除草ローターで地表を数センチ削り、転圧前に異物を除去するという作業を、実施しております。以上、現状と、行われている安全管理になりますけれども、金属探知機による調査に関しては、学校とトレセンの利用状況を確認し、必要性の有無も含めて、今後も検討してまいりたいという風に考えています。ご理解のほど、よろしく願います。

議員 金属探知機等については検討していただけたということですので、ありがとうございます。ただ、学校で、毎月1回、安全点検やしているのはそれよく承知しておりますが、安全点検だけだと、なかなか遊具に関してもそうだけれども、腐食だとかが分からないことが多々あります。実際に色々な場面で見え点検をしたにも関わらず、怪我をしたという事例も、新聞等でよく報道がされておりますので、やはりそういう点も含めて、最新の教育環境、危機管理、安全対策を、ぜひお願いしたいと思っておりますので、よろしく願います。

◆三浦寛本議員 水道管敷設工事の今後の実施計画等について
通告により村長に質問いたします。

根羽村のライフラインの一つである上水道ですが、昭和51年から60年に整備されてから、40年以上になります。厚労省HPで調べました法定耐用年数では管路は40年となっています。今後老朽化に伴い、管のさび等による健康被害、巨大地震等による大規模な水道管破裂など懸念材料は山積している。村では水道事業が公営企業会計になること

に伴い、固定資産台帳等の整備をされ、管路延長、水道管の使用材料、経過年数等把握されていると思えます。そこで、今後耐用年数が過ぎてしまっている水道管、並びに巨大地震等に対応できる、耐震化の水道管への布施替えをどのように実施していくのか、実施するとなっても巨額な予算が必要になり、設計なども含め完全に終了するまでかなりの年数がかかると思われる。村長は4期目のこの任期中に工事の実施等ある程度の道筋をつけるつもりであるのかお聞きしたい。また、現在どの段階まで進んでいるのか、財源確保のための有利な補助事業等調査研究をしているのか。また、村民に対して納得できる今後の考えをどのように周知していくのかこの3点についてお聞きしたい。

村長 ご承知のように、当村の水道については、根羽村の簡易水道、小戸名簡易水道、松原の飲料水の供給施設、浅間の簡易給水施設4カ所を、平成29年に根羽村簡易水道事業の創設、統合の創設という形で認可申請を行って、1本で完了しておるところである。各施設についてもほとんどが、先ほどお話をしたように、建設年度は昭和54年以降というものになっており、施設の老朽化が進んできている状況にある。これら施設のうち、着水井や沈砂池、ろ過地や排水地等のコンクリート構造物は法定耐用年数が60年であり、耐用年数は超えたものはないと理解している。ポンプ施設等の電気設備については、法定耐用年数が15年から20年と短く、その都度必要の更新を行ってきたが、まだ未更新のものも含まれているのが現状である。管路施設の延長については、村全体で約35km、うちダクタイル鋼鉄管が12kmで約34%。硬質の塩化ビニル管が22kmで63%。その他が約1kmとなっている。水道施設は、施設ごとに、先ほどおっしゃったように、法廷の耐用年数が定められている。この法定の耐用年数で

の更新については経営に大きく影響することから、平成26年に総務省が公営企業の経営戦略の策定に附する研究会のこの報告で、法定耐用年数と目標耐用年数、この解離についての調査結果を公表したところである。その中で、建屋については、目標耐用年数は法定耐用年数と同じ50年、構造物については、法定耐用年数60年が目標耐用年数75年、管路については、種別に関係なく法定耐用年数が40年となるのが、目標耐用年数が、これは種別によって様々違うようであるが、40年から80年となっているわけである。村内の管路については、先ほど言いましたように、ダグタイル铸铁管は目標耐用年数が60年となっており、耐用年数の期間内であるが、硬質の塩化ビニル管は目標耐用年数も40年でありまして、昭和54年ものについてはこの40年を経過した状態にある。村では、平成29年に、水道の全事業全般にわたって検討すること、効率的な運用を図るために、老朽化施設の更新や、耐震化など、施設の強化を含めて、水道事業の経営の健全化を図りながら安全な水を安定的に供給していくことを目的に簡易水道事業適正化計画の策定をしている。この計画の中では、緊急性のある重要度の高い事業計画を令和2年度までに、短期計画として、令和3年度から7年度までを中期計画として、令和8年から令和22年までの15年間を長期計画として施設整備の計画の概要を示しております。この長期計画だが、今ある施設を全部回収したと見積もったこの計画の中では、全体で27億8000万円の事業費が見込まれておりまして、管路を全て回収した場合の費用が、約16億4000万円余と、そういった大きな費用が必要となっている事業計画になつています。また、先ほど申しましたように、耐用年数が経過している、硬質の塩化ビニル管の全体の63%であり、この更新が近々

の課題であると考えている。ただし、それぞれの市町村によつて、この更新年数、実使用年数として設定がされている例があるわけでありまして、根羽村ではまだ、実使用年数の設定というのは行っていないが、そういった部分も含めて、まずは、この方針というものが近々の課題であると考えている。早期の工事着手というのは理想であるわけでありまして、今後、管路配置、適正な管路の配置を含めて、早い時期にこの管路の詳細について、調査に入つて計画をしてまいりたいと考えている。また、事業には多額の経費が見込まれ、国の今ある制度の中では、国の水道施設整備費の中で、基幹改良事業で実施することが考えられるが、その場合は補助率が3分の1で、その補助残を、簡易水道債と過疎債で充当し、事業が組み立てられると考えられる。また、今水道事業、下水道事業については、厚生労働省から国土交通省へ移管され、その中でまた新しい水道管の整備と言います。補助事業も検討されるやも話を聞いているので、そういった情報をつかりと把握していきたいと思つて、この計画を握していきたいと思つて、いずれに致しまして、来年すぐ実施するとかいうのは非常に難しいが、早急に、この老朽化する管路についての方針について、しっかりと計画を立てて、計画的に管理の方針をしていきたいと考えているので、ご理解をよろしくお願い申し上げます。

村長 村民の皆さんが不安を感じているという点も、承知をしているが、村としては、まずは漏水箇所を、早急にいった場合を発見し、修繕をしていく。そういった形で、テレメーターを使つたりと、情報を使いながら老朽箇所の早期発見に努めている。いづれにしても、確実とは言えないが、40年、現在、若干過ぎているが、40年過ぎたから全てがダメだという理解はしていないが、まだ安全性はあるんだけど、ただ危険は非常に大きくなつてきていることは理解していただきながら、村では適切な水道管理を努めていくというのを村民の皆さんにしっかりと伝えしながら、更新計画についても、私の任期はあと4年あるが、その中で方向性は示し、事業実施までいけるかどうかはまだここでは確約できないが、管路の更新については必要性があると理解しておるもので、方向性は示したいと思つておりますので、ご理解をいただければと思います。

議員 任期中にある程度の道筋をつけるという、おっしゃるのは理解できました。再三申し上げておりますが、どのような方法で、広報ねばでやるのか、地区懇談会で示すのか、そういった方法で今の不安払拭をするのか、お聞きしたいと思つてます。

村長 方針については、これから広報無線を使つたり、「広報ねば」を使つたり、また何かの会議を使つたり、地区懇談会は終わつてしまつたが、また区長会を通じたり、様々な機会でも、水道に対する関心はしっかりと皆さんに、PRと言いますか、説明をさせていただきたいと思つています。よろしくお願ひ致します。

議員 はい、ありがとうございます。この水道事業は待たないです。早急に対応していただき、住民への十分な情報提供をお願い致します。

議員 予防医療に伴う予防接種の負担金及び人間ドックの補助金につ

いて、根羽村では高齢化率が非常に高いのはご存じのとおりであるが、それだけお年寄りの方が元気でおられる事は言うまでもありません。これは積極的に予防医療に各個人が取り組んでおられるからだと思つます。そんな中で、現在根羽村ではインフルエンザ等各種予防接種等に個人負担金徴収している。また75歳以上の方々は人間ドック補助金が交付されてない。感染予防に関心を持ち、過去のデータ等と比べ自分の健康状態を知り、病気に対処する村民の方々がほとんどであります。もし、インフルエンザなどの病気に、働く世代の方々が感染してしまうと、その家庭の収入減が無くなつてしまう恐れがあります。また、同居する年寄りの方が感染・病気になるれば、その看護のために働く世代の方々が見なくてはいけないという介護の関係も出てくる。このような、負の連鎖を未然に防ぐためにも、予防医療は必要不可欠である。予防医療には「病気を未然に防ぐ」「病気を初期段階で見つけて、対処する」「かかつてしまった病気の進行をくい止め、回復を目指す」大きく分けて以上の3つに分類されると思われまふ。そこで、予防医療の分類の中の「病気を未然に防ぐ」という観点で、予防接種等の個人負担を撤廃し、「個人負担の軽減を図る事。また、「病気を初期段階で見つけて対処する」という観点で人間ドックと過去のデータ等を比べ、自分の健康状態を知り、病気に対処したいと思つている75歳以上の方々にも人間ドックの補助金を交付すること、「安心・安全な暮らしの実現」という村長の掲げる公約の中の、健康の安心村民に提供する事を検討し、実施する考えはあるのかお聞きしたい。

村長 村では、村民の皆さんが健康で過ごせるために、様々な検診事業や予防事業、そして感染症の予防事業、健康教育、健康相談、家庭訪問、母子の保健事業、国保のヘルアップ事業、高齢者体的事業などを実施しているところである。また、予防接種事業について、BCGや、小児用肺炎球菌ワクチンや、日本脳炎等の定期予防接種については、18歳以下は、これは無料を実施をしている。また、インフルエンザの予防接種は、実績であるが、昨年度、実施者が、18歳未満が64人、18歳から64歳までが100人、65歳以上が311人の方が接種をされている。接種については、高校生以下は無料、19歳から64歳未満が2,000円、また、ここ数年、新たに取り入れたもので、64歳以上が、1,000円の自己負担となつてい

な受診は生活習慣病予防を目的とした健康診断であるとされている。また、県の後期高齢者医療広域連合では、検診、検査に対する補助はありますが、人間ドックに対しての補助はないのが現状である。村では、後期高齢者の方を対象とした検診は、先ほど説明申し上げたように、自己負担なしで総合検診として毎年実施しているため、人間ドックに対しての補助がないのが現状である。また、全てとは言えないが、必要な検診については総合検診で相当対応できるものであると考えており、自己負担のかからない総合検診を積極的に受けていただき、健康管理に役立てていただきたいと、今までも地区懇談会等で、説明をさせてもらった状況である。また、村民の皆さんが健康で暮らせるためにも、様々な事業について、より積極的に進めていきたいと考えているところである。議員さんがおっしゃられた自己負担を撤廃するということについても、自己負担しないにはこうしたことはないわけであるが、全て無償というのは、財源等の問題でありまして、今後、色々な方法を検討させていただきたいと思っております。また、ご理解をいただきたいと思うので、予防接種等の予防事業については、感染リスクを減らすといったことから、予防接種の選択肢の幅を広げることが大切ではないかと考えている。今ある予防接種の補助に加えて、新たな予防接種についても今後の導入を考えていきたいと思っております。いずれにしても、引き続き村民の皆さんが健康で安全で安心して暮らせるような取り組みについて、様々な検討、意見をお聞きしながら進めていきたいと思っておりますので、ご理解をお願い申し上げます。

ことで、それぞれの方々、1000名と考えても20万円ですか。後、3000人の老人の方々は1,000円でやつても30万。この金額が高いのか安いのかは分かりませんが、前向きに検討していただきまして、予算化でき、健康で安心して暮らせる根羽村というようなPRも兼ねてこういった所で予防医療を頑張つてやっていただきたいと思います。また、健康については村民が非常に関心を持っていることですので、早急に対応していただき、村民への十分な情報提供の方もお願いしたいと思ます。以上で、質問終わります。

村道認定

◆村道中125号線大畑地籍部分を公衆用道路として管理するため、議会の議決をしました。

補正予算

◆令和5年度根羽村一般会計補正予算(第2号)

村営住宅建設工事増工分等により、86,605千円を追加し、総額27億43,467千円余となりました。

◆令和5年度根羽村簡易水道特別会計補正予算(第2号)

新井地区水管橋移設工事増工分として、3,949千円を追加し、総額54,239千円余となりました。

◆令和5年度根羽村介護保険特別会計補正予算(第1号)

高額介護サービス負担金等により、17,658千円を追加し、総額2億56,258千円余となりました。

◆令和5年度根羽村営バス特別会計補正予算(第1号)

バス修繕経費として、1,545千円を追加し、総額20,045千円余となりました。

決算

◆令和4年度根羽村一般会計歳入歳出決算の認定

◆令和4年度根羽村国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定

◆令和4年度根羽村簡易水道特別会計歳入歳出決算の認定

◆令和4年度根羽村下水道特別会計歳入歳出決算の認定

◆令和4年度根羽村介護保険特別会計歳入歳出決算の認定

◆令和4年度根羽村営バス特別会計歳入歳出決算の認定

◆令和4年度根羽村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定

一般会計並びに六特別会計の決算審査が行われ、全七会計について原案どおり認定されました。

報告事項

◆令和4年度根羽村財政健全化判断比率について

人事

◆教育委員会の委員の任命に付き同意を求めることについて

石原八重子氏の任命について同意がされました。

令和4年度決算に基づく健全化比率の公表

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により健全化判断比率の公表をします。

各数値とも、基準を下回っています。今後も、経費の節減や繰上償還を実施するなど、健全な財政運営を目指します。

各数値の内容は次のとおりです。

①実質赤字比率

一般会計と村営バス会計を対象とした実質赤字額の標準財政規模に対する比率を表したものです。

②連結赤字比率

全ての会計を対象とした実質赤字額の標準財政規模に対する比率を表したものです。

③実質公債比率

全ての会計を対象とした元利償還金等や一部事務組合負担金のうち、地方債の償還に充てたと認められる者の標準財政規模に対する比率を表したものです。

④将来負担比率

全ての会計と一部事務組合や三セク等を含めた将来的に負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率を表したものです。

指標名	根羽村の数値			早期健全化基準	財政再生基準
	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算		
実質赤字比率(%)	—	—	—	15.0	20.0
連結実質赤字比率(%)	—	—	—	20.0	30.0
実質公債比率(%)	7.3	7.1	5.8	25.0	35.0
将来負担比率(%)	—	—	—	350.0	

※実質公債比率以外はマイナスのため該当なし

村民インタビューについて

令和3年度から行ってまいりました村民インタビューにつきまして、新型コロナウイルス感染症の影響もあるなか、全世帯の84.4%となる346世帯498名の皆様からお話を伺うことができました。多くの皆様にご協力いただき誠にありがとうございました。このインタビューでお聞きした多くのお声、ご意見を分析、検討した結果、6つのキーワードとして左図にまとめました。この結果については、下記のとおり検討を重ねた上で、今後村で策定するネバーギブアップ宣言2.0、根羽村総合計画に反映させていただきたいと思っています。

皆様のご意見を分析して、これまでのご報告として、その説明動画をケーブルテレビ及びYouTubeにて10月から公開しますので、ご覧ください。

なお、YouTubeのURLについては、10月以降、村のホームページでご確認ください。



今後の日程

インタビュー結果等について、皆様との話し合いの場を作りたいと考えております。下記の日程で行うことを予定しております。

10月8日（日）やまあいフェスティバル

※ インタビューの結果を1枚のポスターにしました。

皆様のご意見、ご感想を用紙にご記入のうえ、お聞かせください。

（展示スペースにて）

インタビューに関すること、これからの村のこと、なんでも結構です。

20年後の根羽村について考える会

10月30日（月）19：00～ しゃくなげ やまあいホール

11月7日（火）19：00～ しゃくなげ やまあいホール

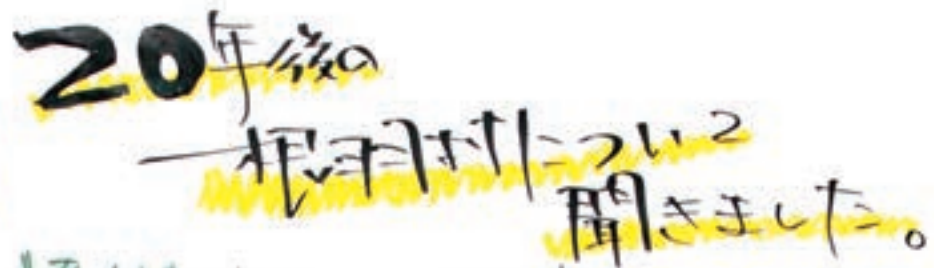
※ インタビューの結果について少人数のグループに分けて話し合いたいと考えております。

皆様、お誘い合ってご参加ください。ご参加いただける方は、役場までご連絡ください。

根羽村役場 村民インタビューチーム

担当：鈴木、片桐（匡）、石森、永田

TEL：49-2111 FAX：49-2277



健康

全世帯の

84.4%

498名

田人(主)畑
仕事に続けた!!

连接·旅行
αηβγ, γδ, εζ, ζη=δ

(不) 寄田田草
 与者者者
 いれ 文接介導
 福社社 日

交流万例

近所世代間村外
気持職業子代

希望 交流心得
讨论在归之至
大冲中!!!
(自然、秀韵)

3. 证明：
 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n f\left(\frac{k}{n}\right) = \int_0^1 f(x) dx$

どうなる? (どうなる? 近頃)

教育

其经济生活也同以
社会教育

希望

音 = 12 度 四 度 五 度 三 度 二 度 一度

1. 学习目的明确

一者增環後， Δ 固定
(十品力係10分20)

T.04-2 清道夫

Uターン

04- (Handwritten note: 手動・注意)

生

學生が要作の
想の時に!!
Vタニ石・I Vタニ石・A

$$V_T = \frac{1}{\beta} \cdot I \cdot V_T = 20 \text{ mV}$$

眉目

仁事·德修作
起業

和 低いと所が増える
新しい信がつかえる
可いから2022
企業に工場の新設

1000

信月 信月 信月

今日は村民の支援で
足りない？

挑战

呼吸器系

村の発展に力をつけたい
 観光を盛らしたい
 人の役に立ちたい!!
 村の発展に力をつけたい!!
 王様様!!
 王様様!!



石原忠正氏（下町） 瑞寶雙光章を授与される

7月29日で満88歳になられました、石原忠正氏に、瑞寶雙光章が授与され、9月14日に伝達式がやまあいホール行われました。



氏は、昭和29年に根羽村に奉職して以来、平成7年6月までの41年3ヶ月間、豊富な経験と卓抜なる識見をもって地方自治の発展に貢献し、昭和62年から平成3年までの4年間は根羽村収入役を、平成3年から平成7年までの4年間は根羽村助役を歴任し、根羽村の行財政の円滑な運営にご尽力いただきました。また、昭和31年1月から昭和57年2月までの26年2ヶ月に亘り、根羽村消防団に在籍し、その間、昭和50年1月から昭和52年12月までの3年間は、消防団副団長として、昭和53年1月から昭和57年2月までの4年

2ヶ月間は消防団団長として、地域の安全、住民の生命、財産を守るため、ご尽力いただきました。

この度、これらの功績が認められ、日本国天皇より「瑞寶雙光章」を授与されました。心からお祝い申し上げます。

地域づくり支援金事業紹介 平地区お滝周辺整備

村では平成23年から、区・洞・各種団体等が自主的かつ主体的に取り組む地域づくり事業の支援を目的とした、『地域づくり支援金』事業を実施しています。本年度は2団体の事業を採択しています。

この内のひとつ、「平地区お滝周辺整備」事業が完了しましたので、ご紹介します。

平地区には「お滝」と呼ばれる滝があり、古くから平地区の皆さんが整備



し大切に守ってきました。

お滝への進入路の整備、モミジ・ハナモモを植栽することで、月瀬の大杉と併せて多くの人が訪れる場所、親しみある里山を目指して整備を行いました。

皆さんも、一度訪ねてみてはいかがでしょうか。

お滝へは、月瀬大橋から月瀬の大杉に向かう道中に入口があります。農繁期は獣害防除柵が設置してありますので、開けたら閉めるなどの対応をお願いします。

「土地の境界、不動産の表示登記に関する無料相談会」のお知らせ

土地の境界、不動産の表示に関する登記でお困りのことがあれば、専門家である土地家屋調査士が相談に応じますので、ご利用ください。

日時 令和5年11月18日

【土曜日】13時半～16時半

会場 飯田市本町一丁目

橋南公民館（旧りんご庁舎）

☎0265-2410327

相談時間 1件 30分以内

申込方法 電話による事前申込み

（締切：11月15日まで）

申込・問合せ先

長野県土地家屋調査士会

☎026-23214566

受付時間 9時～17時

（平日・正午～1時及び土日祝日を除く）

敬老会

令和5年9月16日、老人福祉センターしゃくなげにおいて敬老会が開催され、喜寿8名、米寿3名、記念写真贈呈（91歳）4名の方がご出席くださいました。

喜寿の方へは、お祝い金、米寿の方へはお祝い状、91歳の方へは記念写真の贈呈を村長よりおこないました。皆さん、これからもお身体ご自愛いただき、お元気で過ごしてください。



地域おこし協力隊の紹介

三好諭史

こんにちは・根羽村地域おこし協力隊の三好諭史です。

根羽村観光協会の事務局として、2回目の夏を迎えました。

現在、根羽村観光協会としてグリーンハウス森沢を管理させて頂いております。

昨年の夏は、私の宣伝不足や、コロナ第5波によるキャンセルが続くなど、グリーンハウス森沢を十分に生かすことが出来ませんでした。

今年の夏は、根羽村観光協会会員の皆様、根羽村役場の皆様、根羽村森林組合の皆様、ねばのものの皆様など、皆様のご紹介やご協力のお陰で、昨年度と比較して数倍のお客様にご利用頂きました。

県外からのスポーツ合宿利用も多く、ご利用頂いた皆様様に、根羽村の素晴らしさを語られていて、私も誇らしい気持ちになりました。本当に暑く、また忙しい夏になりましたが、あったという間に過ぎた充実した夏でした。大勢の人で賑わうグリーンハウス森沢もどこか嬉しそうだったように思います。

この素晴らしい根羽村を、これからも観光協会として広くアピールしていきたいと思っています。これからもご支援のほど、よろしくお願い致します。



鈴木 楓

こんにちは、根羽村地域おこし協力隊の鈴木楓です！

9月で根羽村に来てちょうど1年が経ちました！

そのため、今回は私が1年間根羽村で暮らして感じたことを皆さんに伝えたいと思います。

まずは、「ありがとうございます！」と元気よく伝えたいです。やまあいの地域で暮らすこと自体が初めてだった中で、日々楽しく過ごすことができているのは、根羽村のみなさんのおかげだと思っています。

特に私は子どもたちからはたくさんエネルギーをもらっており、川遊びのやり方や森での遊び方を教わり



夏休みに子どもたちと川で遊びました！

ました。私の車がどんな車か子どもたちはわかっているのでも「この前、飯田で先生を見かけたよ」と言われたこともあります（笑）

私個人を気にして見てもらっているという感覚は、以前住んでいた街では感じられませんでした。そこが根羽村のあたたかさなんだなあと感じました。

文字数の関係もあり、ここで全ては伝えられませんが本当に楽しく過ごさせてもらっています！

シニアクラブ
ボランティア作業

令和5年9月9日に、シニアクラブの12名の皆さんが根羽学園でボランティア作業をおこないました。

当日は朝8時半頃から作業を始めて、中庭周辺の草刈り、体育館の清掃をおこないました。

天気が良く、暑い中での作業となりましたが、大変きれいにしていたいただきました。作業にご参加いただいた皆さん、お忙しい中、ありがとうございます。



ジェネリック医薬品を利用しよう

病気やケガで医療機関を受診したとき、ジェネリック医薬品を利用すると、薬代の節約となるだけでなく、医療費全体の増加を抑えることができます。ジェネリック医薬品のことを正しく知って、積極的に利用しよう。

効き目は一緒に価格が安い

ジェネリック医薬品は、先に研究開発された薬＝新薬（先発医薬品）と同じ主成分で製造されており、効き目も同じです。新薬よりも開発の費用が低く抑えられるため、新薬よりも3～5割程度安いことが多く、長期に渡る服薬が必要な方や複数の薬を飲み続けなければならない方への経済的な負担が軽減されます。

おためし期間や工夫

これまで使用していた薬をいきなりジェネリック医薬品に変えることに不安がある場合は、試しに私用してみることもできますので、医療機関や薬局に相談ください。

※ジェネリック医薬品には、飲みやすくするために苦みを抑えたり、形状を小さくするなど新薬よりも飲みやすく工夫されたものもあります。

安全基準を満たした安心な薬!!

ジェネリック医薬品は、新薬と同様に国の厳しい審査基準を満たしています。また、品質再評価（第三者が新薬とジェネリック医薬品の品質を評価できる制度）による品質の確認も進んでいます。

使用できない場合もあります

すべての医薬品にジェネリック医薬品が存在するわけではありません。

また、医師の治療方針や体質などによっては、ジェネリック医薬品をしようできないこともあります。

☆変更の仕方：医療機関や薬局に相談しましょう☆

まずは医療機関の窓口で、「ジェネリック医薬品希望」の意思を伝えましょう。処方せんの変更不可欄に「×」や「V」の記載や医師の署名がなければジェネリック医薬品に変更可能です。服用方法などについては、薬剤師から説明を受けることができます。相談時には、お薬手帳を活用して、お薬手帳は一冊にまとめておきましょう。

※ジェネリック医薬品のくわしい情報は
右記ホームページをご覧ください。

<http://www.generic.gr.jp/>

かんじゃさんの薬箱

検索



マイナンバーカードが保険証として利用できるようになりました。

マイナンバーカードを健康保険証として利用するための申し込みについては、役場で補助をしていますのでお気軽にご相談ください。

また、2024（令和6）年秋以降は新規の保険証の発行を取りやめ、マイナンバーカードと健康保険証を一体化する検討がされています。

マイナンバーカードに健康保険証情報を登録しておくことができること！

就職・転職・引越をしても保険証の登録をしておけば、健康保険証としてずっと使えます。

【注意】医療保険者（市町村）への加入等の届出は引き続き必要です。

マイナポータルで自身の特定健診情報や薬剤情報・医療費情報を見ることができます。

マイナポータルを通じた医療費情報の自動入力で、確定申告の医療費控除が簡単にできます。

同意をすれば、初めての医療機関等でも、今までに使った正確な薬の情報が医師等と共有できます。

限度額適用認定証がなくても高額療養費制度における限度額以上の支払いが免除されます。

【注意】既に、ポイント申請の際に保険証の登録をしている方は、マイナンバーカードに保険証情報は入っています。アプリ等を使用してご自分でも携帯電話等で確認できます。



柔道整復師・鍼灸師等にかかるときの注意!!!

正しく施術を受けましょう

柔道整復師・鍼灸師（接骨院・整骨院など）の施術に国保や健康保険が使えるのは、一定の条件を満たす場合に限られていますので、ご注意ください。

正しい利用を心がけて、大切な医療費を無駄づかいしないようにしましょう。

柔道整復師

○ 保険が使える場合

仕事中や通勤時以外の急性または亜急性（急性に準ずる）の外傷性傷病の場合は保険が使用できます。

◇打撲 ◇ねんざ

◇挫傷（肉離れ等）

◇骨折・脱臼の応急手当

※骨折・脱臼は緊急時以外では医師の同意が必要

× 保険が使えない場合

- ◆日常生活の中の疲れや肩こり
- ◆スポーツなどによる肉体疲労
- ◆神経痛（リウマチ・慢性関節炎など）
- ◆加齢による腰痛や五十肩の痛み
- ◆脳疾患後の後遺症などの慢性病
- ◆仕事中や通勤途上の負傷 など

※全額自己負担となります。



—POINT—

接骨院や整骨院などで施術を行うのが柔道整復師です。

「治療」に当たるものですが、エックス線検査や外科的手術、薬剤投与などの医療行為を施すことはできません。

柔道整復師・鍼灸師等による施術費用はいったん全額負担し、あとから申請して一部負担金以外の費用を払い戻してもらうこと（療養費払い）が原則です。ただし、地方厚生局と協定（受領委任）を結んでいる施設であれば、窓口で一部負担金を支払うことで施術が受けられます。

同意書用紙を提出してください

保険を取り扱っている接骨院・整骨院・鍼灸院には、医師の同意書用紙が用意してあります。この同意書を普段かかっているお医者さんに必要事項を記入してもらい鍼灸院等に提出してください。

必ず領収書を受け取りましょう

柔道整復師等には、領収書の発行が義務づけられています。

鍼灸師等の施術を保険で

○ 受けられる疾患

- ◇神経痛 ◇リウマチ
- ◇頸腕症候群 ◇五十肩
- ◇腰痛症 ◇頸椎ねんざ後遺症

マッサージの施術を保険で

○ 受けられる症状

- ◇筋麻痺…筋肉が麻痺して自由に動けないような症状
- ◇関節拘縮…関節が硬くて動きが悪い症状

マッサージは症状に対する施術

マッサージは傷病名ではなく、症状に対する施術になります。

◆注意◆

◇医療機関との重複受診はできません。

同一の負傷について、同時期に柔道整復師又は鍼灸師等と医師に重複してかかることはできません。ただし、負傷の状態を確認するために定期的に医師の検査を受けることはできます。マッサージは施術が長期にわたる場合、定期的に医師の診断と同意が必要です。

◇「療養費支給申請書」の内容を確認しましょう。

国保を扱っている柔道整復師の施術を受ける場合、窓口で保険証を提示し、一部負担金を支払うとともに、「療養費支給申請書」への署名が必要です。施術内容に誤りがないかをきちんと確認してから署名するようにしましょう。

◇施術内容を照会させていただくことがあります。

国保や健康保険で柔道整復師にかかった方に、負傷原因や施術内容などについて照会させていただく場合があります。これは、医療費適正化の一環として、請求内容に誤りがないかを確認するために行いますので、ご協力をお願いいたします。



介護保険料に関するお知らせ

第1号被保険者保険料所得段階（65歳以上のかた）

※40歳～64歳のかたは、健康保険（国民健康保険又は会社の健康保険）とあわせて徴収されています。

所得段階	標準割合	保険料年額	備 考
第1段階	基準額×30.0%	19,800円	根羽村介護保険条例及び、介護保険法施行令によって所得段階・保険料年額が決定されています。 (第1～3段階(低所得者)のかたは減額賦課の該当です)
第2段階	基準額×75.0%	49,500円	
第3段階	基準額×75.0%	49,500円	
第4段階	基準額×90.0%	59,400円	
第5段階	基準額	66,000円	
第6段階	基準額×120%	79,200円	
第7段階	基準額×130%	85,800円	
第8段階	基準額×150%	99,000円	
第9段階	基準額×170%	112,200円	

※ R3.4～保険料改定（R5年度まで）第8期介護保険計画に基づく保険料

R6年度からは第9期計画に基づく保険料となります。

毎年4月～6月までは前年度の所得によって計算された保険料を仮徴収しています。6月中に当年度の所得（確定申告の情報による）が確定した段階で再度計算され、7月～翌年3月までの保険料が確定となり、徴収いたします。

令和5年度は、第9期介護保険計画の策定期間となっているため、令和6年度からは上記の金額から変更となる予定です。

納 付 方 法

年金からの天引きの場合（特別徴収）

- ・・・年額18万円以上の年金を受給されているかたが対象です。年6回、年金支給日に合わせて天引きされます。ただし、一時的に普通徴収となる場合があります。その場合は、現金での納付または口座振替となります。口座振替をご希望のかたは、金融機関へ依頼書の提出が必要となりますので、役場までご相談ください。

現金納付・口座振替の場合（普通徴収）

- ・・・年度途中で、65歳になった、根羽村に転入した、年金の受給が始まった等の理由で、介護保険料の普通徴収が開始となります。

その他、ご不明な点は根羽村役場住民課（49-2111）までお問い合わせください。



長野県救急安心センター(#7119)開設に伴うお知らせ

急な**病気**や**ケガ**等で
・救急車を呼ぶか
・病院に行くか
迷ったときには

#7119へ



(相談は無料)

※ダイヤル回線、IP電話の場合は、「026-231-3021」へおかけください。

長野県救急安心センター 2023年10月1日(日) 午前8時から 運用開始

おとな（概ね15歳以上）の方が対象です。
症状を伺った上、看護師がアドバイスします。

受付
時間

平 日 : 19時から翌8時まで
土・日・祝日 : 8時から翌8時まで

こども（概ね15歳未満）の場合は

#8000へ

(受付時間: 毎日19時から翌8時まで)

●**緊急・重症の場合は迷わず119番通報してください**●



長野県 HP

■お問い合わせ
県庁 医療政策課
TEL: 026-235-7131



横旗自治会が道路愛護表彰伝達式にて表彰されました

8月31日にやまあいホールにて、横旗自治会の道路愛護表彰伝達式が行われました。

横旗自治会は平成5年から、国道一五三号根羽村地内の歩道や法面の除草・清掃等を広範囲にわたり行っており、地域の環境維持や道路美化に多大なる貢献をされているとして、国土交通省より表彰されました。

横旗自治会におかれましては過去に二度受賞されており、今回で三度目の受賞となります。

誠にありがとうございます。

村内二企業によるカーブミラー ボランテア清掃作業実施

8月11日(金)朝9時から正午まで、県道、村道のカーブミラー約50本を(株)片桐工務所さん、(株)フジヨシ工業さんがボランテアで清掃作業をしていただきました。

今回はゴミがついたり、汚れたりしていたカーブミラーを水洗い、ふき取り等を行い、とてもきれいにさせていただきました。また交通事故防止にもなり、安心安全な道路環境になりました。(株)片桐工務所さん、(株)フジヨシ工業さん有難うございました。

ハロウィンジャンボ
1等前後賞合わせて5億円
1等3億円・前後賞各1億円

5億円

皆さんのチャンス広がる!
ハロウィンジャンボミニ
5,000万円
1等前後賞合わせて5,000万円
1等3,000万円・前後賞各1,000万円

パソコンやスマホでネット購入!
QRコード
https://www.hallnagano-japan.co.jp/

9月20日(水)同時発売
発売期間/9月20日(水)～10月20日(金) 抽せん日/10月27日(金)
2023年長野県条例第14号 一審制国営 全国市町村共同抽せん 各1枚300円

この宝くじの収益金は市町村の暮らしまちづくりや環境対策、高齢化対策など地域住民の福祉向上のために使われます。



『南信州環境メッセ2023 (ゼロカーボン活動推進見本市)』

～リニアとともに地域がにぎわう環境先進地を目指して～ を開催します。

◆日程 令和5年10月28日(土)・29日(日) 10:00～16:00

◆場所 エス・バード (オンライン中継有) 飯田市座光寺3349-1

◆内容

○事業者・団体等のブース出展 ○ゼロカーボンミーティングin南信州、エシカルシンポジウムの開催

○中学生・高校生によるイベント ○子どもゼロカーボンチャレンジ講座

○各メーカーのエコカー (EV、PHV) 展示・体験 ○スタンプラリー抽選会 ○飲食ブース出店 等

多くのイベントや体験があります。ぜひご来場ください。

問合せ先: 南信州環境メッセ2023実行委員会 事務局 (南信州地域振興局環境課)

直通電話 0265-53-0434 E-mail: minamichi-kankyo@pref.nagano.lg.jp



広報

ねいじ

2023.Sep. No.218



保育所運動会

9月16日(土) 根羽保育所で運動会が行われました。当日は9月とは思えないほどの夏日でしたが、園児20名は元気いっぱい全力で運動会を楽しみました。日頃の保育から運動会ごっこを取り入れ、入退場に始まり、競技種目をたくさん練習してきました。運動会が楽しみだったり、上手にできるか、緊張しないか不安だったり、園児たちは色々な感情を持って当日に臨みましたが、競技が始まると保護者や来賓、地域の人からの声援受けながら、臆することなく堂々と練習してきたことを発揮することができました。園児の競技だけでなく保護者競技のむかで競争や祖父母との綱引きなどがあり、全員が参加し、全員で応援し、全員が楽しんだ「みんなの運動会」となりました。

根羽学園 PTA 魚つり魚つかみ大会

夏休み直前の7月22日(土)に「PTA魚つり魚つかみ大会」が行われました。昨年度、雨天のため実施できなかった、この行事も今年は、PTAの方に1～2年生用、3～5年生用、6～9年生用の3つの池を作っていただき、計画どおり行うことができました。たくさんの魚を池の中に放ち、子どもたちは魚つかみを満喫しました。川にも魚が放流され、魚つりを楽しむ生徒もいました。根羽学園の児童生徒みんなで楽しむことができました。天候が心配されましたが、多くの児童生徒、保護者の皆さんが集まり、たいへん賑やかな楽しい時間になりました。



人口と世帯] 総人口 835人/男 417人/女 418人
世帯数 412世帯(令和5年8月31日現在)

【内訳】 すぎ 内訳) ねいじ

発行/根羽村役場 住所/〒395-0701 長野県下伊那郡根羽村2131-1
TEL/0265-49-2111 FAX/0265-49-2277

URL/http://nebamura.jp/ E-mail/info@nebamura.jp 印刷/龍共印刷株式会社